

今後の京都教区における「信徒カテキスタ」養成方針

✠パウロ大塚喜直

2025 年 11 月 27 日

はじめに

京都教区では、2024 年より「信徒カテキスタ」に 3 年任期制を導入し、以降 3 年ごとの奉仕期間更新を行なっています。また、2025 年 4 月からは「求道者に同伴する信徒」にも同様の制度を適用しています。

京都教区はこの両者の奉仕職について現場での現状に鑑み、今後は「信徒カテキスタ」に一本化して、養成していく方向で検討しています。

そこで、「求道者に同伴する信徒」の任期更新時の 2028 年 3 月までに、「求道者に同伴する信徒」の中から希望者を「信徒カテキスタ」へ移行・養成する取り組みを進めてまいります。

これは、信徒の召命を尊重しつつ、各ブロック・小教区教会における福音宣教と信仰教育の充実を図る重要なステップと考えています。

1. 経緯と背景

①「求道者に同伴する信徒」の導入

2009 年、教区宣教司牧評議会にて「信徒によるカテキスタ養成」の検討が要望され、典礼委員会では「成人のキリスト教入信」の第 1 期（教会訪問から入門式まで）において重要な役割を果たす信徒の育成が提案されました。これを受けて、「求道者に同伴する信徒」の養成が開始されました。

この奉仕者は、司祭の指導のもと、教会を初めて訪れる人々に寄り添い、特にみことばを通してキリストとの出会いへと導く役割を担います。傾聴の姿勢を大切に、訪問者の信仰的関心を丁寧に受け止めながら、信仰の道を共に歩みます。

養成内容：

- 傾聴と人間関係の基本技術の習得
- キリスト教基礎知識（福音理解）の再確認
- 「マルコ福音書」を中心とした福音の語りの訓練
- カトリック教理の主要ポイントの伝達力育成

② 教皇による「信徒カテキスタ」役務の制定

2022 年、教皇フランシスコは自発教令『アンティクウム・ミニステリウム』を発表し、「信徒カテキスタ」という役務を正式に制定しました。これは、信徒が洗礼によって受ける預言職の重要性を再認識し、教理教育における信徒の積極的な協力を促すものです。

この役務は、第二バチカン公会議『教会憲章』第 4 章「信徒について」に基づき、司祭とは異なる信徒固有の使命として位置づけられています。信徒カテキスタは、職業・家庭・地域での生活を通して信仰を証しする者として、教会の中で主体的に活動します。

③「信徒カテキスタ」の養成と実績

「信徒カテキスタ」は、「成人のキリスト教入信」の第 2 期（入門式後の教理学習段階）において、入信希望者にキリスト教の教えを体系的に伝える役割を担います。

養成内容：

- キリストの生涯と福音書の学び

- 使徒信条・主の祈り・十戒の理解と実践
- ミサの意義と礼拝の構造
- カトリック教会の歴史と教えの背景
- 信徒としての倫理観と信仰生活の実践

京都教区では2022年より「信徒カテキスタ」の養成を開始し、2024年3月には16名を任命しました。(2024年1月～2027年1月)

2. 奉仕職の見直しと統合方針

「求道者に同伴する信徒」と「信徒カテキスタ」は本来異なる役割を担っていますが、いくつかの現場では両者が重なる形で活動しているのが実情です。以下のような課題が見られます。

現場の実情

(ア) 兼任状態の広がり

「信徒カテキスタ」が教理指導だけでなく、求道者への同伴も担っているケースが多く、特に人材に限られる教会では自然と兼任が生じています。

(イ) 制度と実践の乖離

任命された「求道者に同伴する信徒」がいても、求道者が現れず、活動の機会がないままになっている場合があります。

(ウ) 養成修了者の未活用

養成講座を修了した信徒が、所属教会での役割を明確にされないまま、司祭との連携や配置が不十分なこともあります。

具体的なケース

- ケース①：求道者が複数いるが同伴者が不足
司祭やカテキスタが初期対応から教理指導まで一手に担っている。
- ケース②：信徒カテキスタが心のケアも担う
教理指導に加え、求道者の生活や信仰の悩みに寄り添う役割も果たしている。
- ケース③：求道者がいないため、制度が空回り
奉仕者が待機状態となり、モチベーション維持が課題となる。

3. 今後の方針と養成計画

現在の状況を踏まえ、京都教区では「求道者に同伴する信徒」の新規養成を行わず、「信徒カテキスタ」へ一本化する方針を検討しています。

これに伴い、すでに活動している信徒や新たに希望する方々には、「求道者に同伴する信徒」と「信徒カテキスタ」の養成内容を統合した、「京都教区信徒カテキスタ養成講座」の受講をお願いする予定です。この講座では、従来の同伴者に求められていた「傾聴」を基盤としながら、教理指導を中心とした養成が行われます。

4. 京都教区「信徒カテキスタ養成講座」の実施計画（案）

- 期間：2026年秋～2028年3月(約1年5か月間)
- 目的：信徒が「教理指導者」としての資質を備え、ブロック・小教区教会で、信仰教育と福音宣教に貢献できるよう支援する
- 詳細：内容・日程・方法等は福音宣教企画室より別途案内予定